

テ突出セル部分ニ漏斗ノ狀ヲ與ヘシモノハ、一ニハ別冊工師意見書ニ配スル如ク、沿岸ト相結テ大池ヲ爲シ、満潮ニ當リ潮水ヲ以テ之レヲ滿タシ、干潮ニ方リテハ其瀦溜セル大量ノ水ヲ漸々狹窄セル漏斗口ヨリ放下セシメ、之レニ因テ生ズル速力ヲ以テ港口ノ變更ヲ防グニアリ。二ニハ海面遠隔ノ點ヨリ來レル波浪ヲ擊碎三港ニ停ムルニアリ。

第四 石川島以南ニ於テ延長約五百間ノ個所ヲ埋立テ、其ノ西岸ニ接シ面積大約一萬六千坪ヲ有スル船渠ヲ設ケ、其入口ニ於テ内ノ方ニ開ク所ノ扉ヲ具スベシ。

第五 靈岸島、石川島間ニ於テ幅員三十間延長百〇八間ノ締切ヲ設ケ其南岸石垣ヲミテ低水下二十三尺以上ノ深サニ達セシムベシ。

第六 締切ヨリ高橋稻荷橋ニ沿ヒ鐵砲洲海岸通築地川口ニ至ル海岸ハ凡テ之レヲ改造シ、新設石垣ヲシテ同ジク低水下二十三尺以上ノ深サニ達セシムベシ。

第七 港内ハ總テ低水下二十三尺ノ深サニ浚渫スベキ計畫ナリト雖ドモ、目今ニ在リテハ圖上超點線ヲ以テ示ス如ク延長大約五千七百間幅員平均百五十間ヲ浚渫スルヲ以テ足レリトス。

第八 第五砲臺ハ濬筋ニ依ルヲ以テ直チニ之レヲ撤却シ將來全港ノ浚渫ヲ施スニ至ラバ第六砲臺ヲモ撤却スベキモノトス。

第九 突堤兩端及芝離宮石川島第二砲臺ノ五個所ニ於テ燈臺ヲ設ケ入港船舶航行ノ便ニ供スベシ。

以上ノ計畫ニ依ルトキハ石川島ヨリ築地川口ニ達スル海岸ハ低水下二十三尺以上ノ深サニ達スルヲ以テ、棧橋等ノ設ケヲ借ラズシテ汽船ヲ直チニ岸面ニ近接スルヲ得ベク、而シテ其全長千間以上ナルヲ以テ、長サ五十間内外ノ船舶ト雖ドモ一時ニ二十隻以上ヲ岸面ニ繋ギ、貨物ヲ上下スルヲ得ベシ。又石川島ノ南ニ方リ船渠ノ設ケアリテ數多ノ船舶ヲ之レニ入ルベク、而シテ内ノ方ニ開ク所ノ扉ヲ設クルモノハ吃水三十尺以上ノ大汽船ト雖ドモ渠内ニ在テハ潮ノ干満ニ係ラズ貨物ヲ上下シ、満潮ヲ竣テ出入スルヲ得セシムベキ裝置ナリ。其運搬シタル貨物ハ船渠ヨリ石川島ニ達スル適當ノ編路ヲ設ケ、締切ヲ經テ之レヲ市街ニ運送スルヲ得ベク、其ノ直チニ分配ヲ要セザル貨物ハ船渠ノ周圍ニ於テ數多ノ倉庫ヲ築造シ、一時之レニ儲藏スルヲ得ベシ。而シテ芝離宮以北ニ於テ面積三萬五千坪餘ナル船溜リノ設ケアルヲ以テ、數十隻ノ船舶之ニ碇泊セシムルヲ得ベキガ故ニ、自今ノ商運ニ在リテハ充分ナル計畫ト云フベシ。而シテ商業益々隆盛ニ赴クニ隨ヒ、漸々港内ヲ浚渫スルニ於テハ、芝品川沿岸ニ於テ隨意ニ船渠或ヒハ棧橋等ヲ設クルヲ得ベシ。又石川島ノ南ニ方リ圖上斷續線ヲ以テ示シタルハ將來埋築ノ工事ヲ施シ、船渠等ヲ之レニ設クルヲ得ベキナリ。



東京灣築港工費概算

一、永代橋際ヨリ越中島沖ニ達スル導流杭柵。  
此工費金四千六百十四圓四十錢

延長六百八十間

但シ一間ニ付

金六圓七十八錢六厘弱

一、靈岸島ヨリ石川島ニ達スル粗朶工導流堤  
此工費金二萬五千六百十五圓八十錢

延長二百四十間

但シ一間ニ付

金百〇六圓七十三錢二厘弱

一、石川島ヨリ突堤外ニ沿ヒ新築スベキ導流杭柵  
此工費金九千八百三十九圓七拾錢

延長千四百五十間

但シ一間ニ付

金六圓七十八錢六厘

一、突堤外ニ沿ヒ新築スベキ粗朶工導流堤

延長千四百五十間

此工費金八萬〇六百〇八圓七十六錢五厘

但シ一間ニ付

金五十五圓五十九錢二厘餘

一、隅田川東川口浚渫

長千間土積七千九百三十三立坪

此工費金五千九百四十七圓五十錢

但シ一坪ニ付

金七十五錢

一、靈岸島ヨリ石川島ニ渡ル締切

上幅三十間、長百〇八間

此工費金九萬四千四百九十五圓二十錢

但シ一間ニ付

金八百七十四圓九十四錢六厘餘

一、締切ヨリ高橋稻荷橋ニ沿ヒ鐵砲洲河岸通  
海軍省ノ北、築地川ニ至ル護岸

延長九百五十間

此工費金六十六萬五千圓

品海築港ノ儀ニ付上申



一、東西兩側突堤

此工費金四百七十萬圓

但シ一間ニ付  
金七百圓  
臺場外 巾十五尺 長五千〇四十五間  
臺場内 巾十一尺 長千七百十間

一、船渠

此工費金七十五萬九千四百八十三圓

壹個所

一、埋立箇所護岸石垣

此工費金八萬千五百圓

但シ一間ニ付金百圓

八百十五間

一、築港用諸機械

此代五十萬圓

一、浮標

此工費六千圓

二十ヶ所

但一ヶ所金三百圓

一、燈臺

此建築費金五萬

五ヶ所

但一ヶ所一萬圓

一、燈臺番人小家

一ヶ所

此建築費金二百五十圓

一、濬筋浚渫

平均深二十尺  
平均巾百五十間

長五千七百間

此費用金四百二十七萬五千圓

但シ一坪ニ付金一圓五十錢

一、第五砲臺撤却

一ヶ所

此工費金九萬九千三百圓六十錢

合金千百四十一萬七千六百五十四圓九十六錢五厘

外ニ

金百十四萬千七百六十五圓四十九錢六厘五毛

豫備費

總計

金千二百五十五萬九千四百二十圓四十六錢一厘五毛



## 東京灣築港ニ關スルムルドル氏 意見書

東京灣ハ日本ノ首府全國ノ大市ナリ。其海並ニ内地ト交通ノ便ヲ占ムルノ緊要ナルハ各人  
レヲ洞察スベシ。今ヤ此ノ首府ト江戸灣ト交通ノ狀況ヲ見レバ甚ダ不便ト云ハザルヲ得ズ。

河口ヲ入テ市中ニ近ヅクヲ得ルノ船ハ甚ダ細小ノ者ノミ、吃水四尺乃至五尺ニ過グル舩舟及  
諸船ニ至テハ高水ヲ待タザレバ内ニ入ル能ハズ。諸日本大船ハ（大汽船ハ勿論）其載貨ヲ舩舟  
ニ移スベク、而シテ市ヲ距ル里餘ノ外港ニ在テ風浪ヲ冒シ、或ヒハ數日間爰ニ留ラザルベカラ  
ズ。然レバ此ノ忍ビ難キ狀況ヲ改良スルハ人ノ切ニ希望スル處ト爲リ、而シテ其改良ヲ施スニ  
ニハ如何ノ方法ヲ以テ最良トスベキヤヲ研究スルニ至レリ。

一説ニハ東京ヲ貫ク處ノ墨田川ヲ改修シ、船ヲシテ全貨ヲ載セテ市中ニ達スルヲ得セシムベ  
キ者トシ、又一説ニハ充分ノ結果ヲ此川ノ改修ニ望マズ、全ク此川ヨリ別テ港ヲ付リ以テ大海  
船ノ出入ニ堪ヘシメント欲セリ。

此ノ方法ニ就キ意見ノ相合ハザルヨリ余ニ質スニ左ノ問題ヲ以テセリ。

第一 地圖ニ示スガ如ク、墨田川ハ石川島ニ於テ其水ヲ二道ヨリ放ツ、今其西濬ヲ塞ギ水路  
ヲ深フシ、港ヲ堤下ニ造ルノ説アリ。其意見行ハルベキヤ又其結果如何。

第二 第三説ハ東濬ヲ塞ギ、全川ヲ他ヨリ放チ、而シテ流水ノ浚力ヲ以テ所要ノ水深ヲ港内  
ニ保ツベシトス。此企圖ヲ行フノ結果如何。

第三 此計策各河流ニ關係スル如何又通船ニ所要ノ水深ヲ保ツニ於テ利害如何。

第四 上ノ問題ニ拘ハラズ東京港ノ爲汝ノ考按ハ如何

予ハ此ノ質問ノ順序ニ拘ラズ先ツ川ノ改修ニ由テ東京貿易ノ爲メ如何ノ結果ヲ期待スベキヤ  
ヲ論ジ、次ニ河流ヲ用ヒズシテ又其要旨ヲ傷ハズ、東京ヲ海港ノ地ト爲スヲ得ベキヤヲ穿鑿セ  
ント欲ス。

初三ヶ條ノ問ニ答フベキ處ノ方法及之ヨリ引ク處ノ決施ニ由テ自ラ第四問ノ答ヲ生ズベシ。

## 川 策

墨田川ノ口ハ如何ノ方法ヲ以テ改良セン乎、此改良ハ如何ノ結果ヲ生ゼン乎。

墨田川ハ東京ノ東部ヲ通過シ一離ノ溝渠ニ由テ中川及江戸川ヨリ注入ヲ左岸ニ、兩國ノ下及



大橋ノ下ニ承テ、右岸ニハ遠ク市中ニ通ズル溝渠若干條ト接ス。該川ハ廣狹甚不同ニシテ其流魯テ制治ノ働ヲ爲サズ。

川ハ永代橋ノ下石川島ニ至テ二派ニ分ル、其西派即主派ハ築地濱離宮芝離宮ニ沿フテ其路ヲ取リ、而後漸ク岸ヨリ遠ザカリ品川砲臺第二、第五ノ間ヲ經テ江戸灣ニ入ル。東派ハ要旨少キ者ニシテ、石川島ノ外ニ出デテ大ニ散蔓シ其水ヲ砲臺ノ東ニ放ツ。

現今ノ狀況ニ於テ貫通セル深サハ兩國橋ヨリ永代橋ノ下ニ至ルマデ低水ニ在テ約十二尺、之ヨリ東孔ヲ經テ海ニ達スル者ハ低水下二尺乃至三尺、西孔ヲ經テ品川ニ至ル者ハ低水下四尺乃至五尺ニ過ギズ。

其他川ニ三所ノ深淵アリ、乃チ兩國橋ナル大屈曲ノ者、及永代橋ノ者是ナリ。此最後ノ深所ハ東西兩孔ヨリ進入スル潮流ノ力ニ歸セザル可カラズ。其潮流ハ殊ニ夏間ノ南風ニ由テ種々ノ盤渦及底ノ侵蝕ヲ起スモノナリ。

川ノ水線ノ形ハ殊ニ低水ニ在テ大低齊整ナルコト其縱施積ニ明ナリ。但永代橋ノ下ニ水面ノ亢隆ヲ生ズルヲ見ル、其因ハ該所ノ橫斷積ト石川島ノ東西兩孔ノ者ト權衡ヲ得ザルニ歸セザル可カラズ。

第五斷積（永代橋ノ下分點ノ上）ノ容量ハ千八百八十一年九月十九日、即量查ノ日ニ於テ六

千二百六十方尺ニシテ、石川島ノ兩側ナル第六第八斷積ノ總計ハ僅カニ六千六百二十五方尺ニ登レリ。即チ百分ノ六ノ多キノミ（第七、第八ノ總計ハ尙小ニシテ六千三百三十方尺）北川ノ二派ニ分ル、ニ方リ、其二派ノ斷積ノ總計ハ未ダ分レザル斷積ヨリモ著ク大ナルベク、又主河ト其派トノ廣サニ於ケルモ必其關係ノ存ス可カリシ者ナリ。今ヤ其然ルヲ見ズ。故ニ此ノ不齊整ニ爲サザルヲ得ザルナリ。

高水ニ方テハ同日ニ於テ恰モ反對ノ象ヲ現セリ。則第六、第八斷積ノ總計ハ（一萬千五百十四方尺）第五斷積（八千百）ニ比較スルニ至大乃千百分ノ四十二ノ大ナルニ至ル。

靈岸島ヨリ品川ニ至ル九月二十九日ノ勻配線ニ據レバ、此日ノ低水ハ品川ノ靈岸島ヨリ高カリシヲ知ル。此現象ハ南風ノ水ヲ砲臺ノ近傍ニ驅逐セルニ起ル處ニシテ、只特別ニ生ズル者タルコト明カナリ。是若シ然ラザレバ河水ハ灣ニ放下スル能ハザルベキガ故ナリ。加之某時間靈岸島及品川ニ於テ經驗セル潮線ノ圖ニ據ルモ亦其然ルヲ審カニス、其圖ニ干潮ハ砲臺ノ近邊ニ下ルコト河口ヨリモ低ク滿潮ハ之ニ反シテ品川ニ高キヲ見ル。

此潮線ハ蓋シ完全ノ者ニアラズ（例ヘバ第二砲臺ニテハ只日潮ノ經驗ニ止マリ或ヒハ真正ノ最高低水位ヲ缺ケリ）然ルドモ之レニ由テ左ノ數ヲ得。

（大潮平均六尺）



小潮検査ヲ經ズ

品川ノ潮差

満潮ハ岸靈島ノ低水上平均四尺

干潮ハ靈岸島ノ低水下平均二尺

靈岸島ノ潮差

大汐平均四尺即平均低水上三尺

小汐平均二尺乃至二尺半則平均低木下一尺

兩國橋ニ於テハ潮汐ノ差大汐四尺小汐一尺トス。

然リト雖ドモ此ノ最後ノ潮差ハ甚ダ不齊整ニシテ、風候ニ關スル者ナリ。則月日ト連結セル圖ニ明ナル處ノ如シ。

東京ノ海ト水路ノ交通ヲ改良スルガ爲メ、隅田川ヲ用ユルノ良法ハ第一圖ニ紅色ノ線ヲ以テ示ス處ノ者タルコト彼是ノ事實及局所ノ穿鑿ニ由テ明カナリ。此圖ニ由テ見レバ第一最高潮水ノ上ニ抽ル處ノ堤ヲ以テ東孔ヲ塞グベク、第二兩國橋或ヒハ尙上ノ方第一斷積ヨリ靈岸島ニ至ルマデ川ヲ制治スベク、第三石川島ニ當テ斷積ヲ増大シ及之ヨリ海中十二尺ノ水線ニ至ルマデ河床ヲ低堤ノ間ニ束スベキ是トス。低堤ハ緩ナル灣曲ニ沿ヒ流下スル河水及出入スル潮水ヲ導ク者ナリ。

第一、東孔ヲ塞グニ堤ヲ以テス、其堤ハ最高潮水ノ上ニ達ス則是

(イ) 南風ニ向テ河口ヲ防護スル爲、

(ロ) 二潮ノ合流ニ由リ永代橋ノ下ニ河床ニ生ズル不齊ヲ防グ爲、

(ハ) 河水及潮水ヲ悉ク一流ニ束ネ以テ侵削力ノ最高度ヲ獲ルガ爲メナリ。

第二。川ノ制治、是レ低水ノ高サニ達スルノ工ヲ置キ河水及潮水ヲシテ齊整ノ滲ニ就テ海ニ下ラシムル者ヲ云フ、毎潮進入スル水ノ多寡ハ就中河床ノ齊不齊ニ從フベシ。

河中ニ突出セル工ハ都テ潮汐ノ働キヲ妨グ、高水ノ斷積ニ於ケルモ亦其理相同ジ。然レドモ低水下ノ不齊整ナルハ(俄カニ斷積ノ縮小シ或ヒハ増大スル者モ亦此内ニ算ヘザル可カラズ)其害尙大ナル者トス。是レ素ト最大速力即最大流送ハ深サノ最大ナル處、即低水床ノ處ニ在ルヲ以テ也。故ニ低水床中ニハ苟クモ流下ヲ妨グル者ヲ存在セシムベカラザルナリ。

圖上廐橋ヨリ靈岸島ニ至ル兩赤線ハ(ロノ方ニ向テ漸ク開ク者)カメテ現在ノ狀ヲ變ズル少ナク、之レニ據テ平行工ヲ置クベキ方向ヲ示ス者ナリ。此工ハ(其精神ハ既ニ利根川ニ施ス者ニ齊シ)素ヨリ市中ノ溝渠ヲシテ川ト接續ヲ失ハシメズ、今其容ル、所ノ潮水ノ量ヲ減ゼザル様築造セザル可カラズ。

第三。石川島ニ側フノ斷積ハ之レヲ掠メザルベカラズ。其ノ理ハ上ニ現今ノ斷積ニ就テ言フ處ト此計畫ニ據リ從來二孔ヲ經テ通過セシ、河水及潮水ノ悉ク只西孔ヨリスベキトヲ以テ明カナ



川ヲ導テ靈岸島ヨリ品川ニ至リ、更ニ進テ深サ十二尺ノ線ニ達スルノ件ハ左ニ之レヲ辯ズベシ。

若シ川ヲシテ西孔ヲ經テ後其元來ノ道ヲ遂ハシムル者トセン乎、其流大ニ散開シ、點々深所ヲ獲ルト齊シク、其間ニ淺所ヲ生ズベシ。若シ齊整ナル深濬ヲ浚フテ自然ヲ助ケン乎、此濬ハ流ニ由テ乍チ復埋マリ、爰ニ生ズル屈曲ニハ尙侵削ヲ起シ直部ニハ淺所ヲ生ジ以テ幾クナラズシテ再ビ同一ノ困難ニ陥ルベシ。

淺キ曲江中ニ不易ノ深濬ヲ獲ンニハ之ヲ經テ流ル、川ヲ來タルニ隈ヲ以テシ、其河身ニ於テ期待スベキ最大ノ深サニ符合スル深水線ニ達スルノ外他ニ術ナシ。是レ他ノ河流ノ實驗ニ由テ知ル處ナリ。

此堤ノ高サハ凡ソ滿潮ノ半ニ達スルヲ要スルノミ、故ニ目下ノ場合ニテハ靈岸島ニテ低水上二尺乃至三尺ニ及ビ、其製式ハ甚ダ簡單ニシテ長サノ過半ハ沈層上ニ石堤ヲ投ズルヲ以テ成ルヲ得ベシ。但シ某深所殊ニ砲臺外ノ深サ齊等ニ増加シ、多ク波浪ノ衝激ニ觸ル、處ハ其堤（轟朶ノ沈料數層ヲ用ヒ石ヲ以テ之レヲ列抗ノ間ニ鎮ス）大ナル強固ヲ有セザル可カラズ。然レドモ頂ノ高サハ同一ニ居テ可ナリ。

此堤ヲ築クニ方リ鐵道防ノ後ナル溝渠ハ恐ラク河濬ト結バザルヲ得ザラン。則チ古川ノ如キ是ナリ。然レドモ其口ニハ良好ノ方向ヲ與ヘ、即海ノ方ニ向ハシムベシ。又兼ネテ此細流ノ不潔ヲ致スベキ原因ヲ穿鑿シ其因ヲ除クヲ良トス。

此計畫ニ據レバ新河口ノ心線ハ南々東ニ向フ、而シテ西堤ハ東堤ヨリ長キコト其端末凡ソ南北線ニ居ルニ至ル、此ニ於テ口ヲ南風ニ護シ航入容易ナルヲ得。

砲臺ノ外及其近傍ニ於テ檢スル處ニ據ルニ、潮流ノ方向ハ（圖上ニ示ス）所撰ノ堤ノ位置ニ於テハ凡ソ河口ノ方向ト合スルヲ知ル、第二、第五砲臺間ノ孔ハ狹小ナルガ故ニ、此計畫ノ行ハルルニ方テハ第五砲臺ノ一部ヲ殺カザル可カラズ、是レ尙爰ニ一言スベキノ件ナリ。

川策ノ本案既ニ了ル、次ニ先ヅ此施行ニ由テ如何ナル結果ヲ待ツベキヤノ問題ニ及ブベシ。此間ニ答フルニハ先ヅ川ノ航溝ヲ維持スルガ爲メ存在セル原素ノ何タルヲ穿鑿セザルベカラズ、則

- 一、隅田川獨自ノ水
- 二、側溝ニ由テ中川及江戸川ヨリ會スルノ水
- 三、高水ニ方リ新河口ニ由テ内ニ入り干潮ニ方テ退去スルノ潮水
- 四、半潮ニ方リ低導堤（石川島ヨリ臺場ニ至ル）ヲ越テ流入ヲ始ムルノ潮水是ナリ



然リト雖トモ不幸ニシテ此源皆不潔ナリ。墨田川ノ水ハ實ニ中川江戸川ノ水ヨリ清淨ナリト雖ドモ、諸川ノ水ノ如ク砂或ハ泥分ヲ含ム、是レ水ト共ニ海ニ放下スベキ者ナリ。

口ヲ經テ内ニ入ルノ潮水ハ最清淨ナリ（故ニ北口ニ頗ル大ナル廣サヲ與ヘ、カメテ此潮水ヲ容ル、ヲ圖レリ）然レドモ尙南風ノ際東京ニ向テ進行スル多摩川ノ汚物ヲ以テ穢サルベシ。利根川ノ砂洲ノ海中ニ突出スル幾何ノ遠キニ至ルヤハ只第二圖（海軍圖）ニテ考フルヲ要ス。而シテ二間且三間ノ深線ハ此川ノ近傍ニ於テ海ノ方ニ向ヘル彎圓ノ撓曲ヲ現ハス、是レ北川ノ影響少ナカラザルヲ知ラシムル者ナリ。

此潮水ハ尙ホ低堤ヲ越テ内ニ入ルベキ者ヨリモ清淨ナルヲ、必進潮ノ際廣キ砂洲ヲ涉テ進動スル薄層ノ水ハ其泥砂ヲ動カシテ以テ不潔ト爲ル。

滿潮ノ際此洲ヲ越ヘテ航スルトキハ容易ニ之レヲ證スルヲ得、今ヤ最不潔ナル下層ノ水ハ低水上二尺乃至三尺ノ堤ニ由テ遮却セラルベシト雖モ、亦多々ノ汚物ヲ含ムベシ。尙其流送スル諸汚物ニ加フルニ幾多ノ市溝ニ由テ泥ヲ川ニ致ス者ヲ以テセザル可カラズ。進入スル處ノ潮水ハ川ノ汚物ヲ放下スベク、又川ノ航溝ヲ維持スベキモノナリ。而シテ其自ラ不潔ト爲ル既ニ如此、殊ニ石川島ト品川ノ間ノ勾配少キニ注目スレバ甚ダ此潮水ノ侵削力ヲ特ム能ハザルモノナリ。

以上ノ諸事ニ由リ、又石川島ヨリ下理今航溝ノ狀況ヲ以テ觀察スルトキハ、予ハ此島ヨリ以下ハ低水下六尺乃至七尺ノ濬ヲ存スルヲ得ベシト言フノ外ニ出ヅル能ハザルヲ信ズルナリ。

然リト雖ドモ水ノ侵力ニ由テ此濬ヲ生ゼシメズ、而シテ浚疏ニ由テ淺洲ヲ除キ、以テ侵削セル物質ヲ再ビ口前ニ沈堆セシメズ、故ニ新難事ノ因ヲ爲サシメザルヲ圖ルハ是レ切ニ望ム處ナリ。

或ヒハ浚濬ニ由テ低水下六乃至七尺ヨリモ深キ不易ノ濬ヲ護ル能ハンカ、是レ容易ニ豫言ス可カラズ、此件ニ就テハ幾多ノ議論ノ起ルベキヤ量リ難ク、故ニ又其諸事ノ助力ニ由リ如何ナル結果ヲ生ズルヤモ豫メ言フ能ハザルナリ。

石川島ヨリ上兩國ニ至ルノ川ニ於テハ水ノ流下ヲ便易ニシ、又流ノ分離及南風ノ害力ヲ除クヲ以テ狀況ヲ齊整ニスベシ。深淵殊ニ永代橋ニ在ル者ノ如キハ漸々深サヲ減ズベク、貫通セル濬ハ恐ラク低下十尺乃至十二尺ニ存スベシ。此部ノ濬ノ下ノ方ヨリモ深キヲ存スベキ者ハ第一勾配即流下ノ速力下ヨリモ大ナルガ故、第二川ニ上ルノ海水ハ只上層ノ汚物少キ者ノミナルガ故ナリ。

此川策ノ考案ヲ終ルノ前尙爰ニ一言セント欲スル者アリ。則此計畫ヲ施行スルニ當リ、第五第一、第四、砲臺ヲ相結ビ更ラニ之レヲ岸ニ接スルニ半潮高ニ達スル堤ヲ以テスル是ナリ。然



ルトキハ芝、品川、砲臺右河堤ノ間ニ凡ソ三百町大ノ沼ヲ生ズ、此沼ハ充分靜止セル水量ヲ含ミ、泥分ヲ沈底スベシ。而シテ毎潮泥ヲ含朶セル新水ヲ承ケ其泥ハ常ニ此内ニ留リ、其結果ハ底ノ堆積ニ外ナラザルベシ。故ニ數年ヲ經ルノ後圍堤ノ地ト爲リ豐熟ノ耕地ヲ呈シ以テ工費ノ一部ヲ還償スルヲ得ベシ。

### 深。港。策。

川ヲ用ユル者ハ恐ラク大ナル日本船ヲ東京ニ近ヅカシムルヲ得ベカラズ。況ンヤ吃水深キ汽船ヲヤ。是上ニ言フ處ニ由テ明ナリ。今ヤ東京ヲシテ海港ヲ備フルヲ得テ、其望ミニ満足セシムルニハ如何ノ方法ヲ用フベキヤ之レヲ穿鑿セントス。

此計畫ヲ約論スレバ則チ左ノ如シ。其方法全ク川ト別チテ大ナル池ヲ造ルベシ、其池ハ漸ク狹穿セル漏斗狀ヲ以テ口ヲ海ニ開ク者ナリ、此港ノ深サヲ保ツノ考ハ（最初浚疏ノ後）毎二十四時二回ノ潮水ヲ以テ池ヲ溝シ、干潮ニ方テ之レヲ漏斗ヨリ放下シ、爰ニ流ヲ生ゼシメテ口ノ變化ヲ防グニ在リ。

此計畫ハ第二、第三、第四圖ニ之レヲ示セリ。其圖ニ見ルガ如ク池ノ大サ一千町餘之レヲ造

ル者ハ第一、石川島ニ於テ川ノ西孔ヲ塞グ處ノ堤、第二、北島ノ東角ヨリ第三砲臺ニ至ルノ堤、第三、第一、第四ノ砲臺ヲ相結ビ又岸ニ接スルノ堤、

此堤ハ皆最高潮ノ上ニ抽テ塞斷充分ニシテ毫モ河水及汚濁ノ海水ヲ池ニ入ラシメザルヲ必要トズベシ。但水ノ衝激ヲ受クル少ク、淺水ニ亘ルヲ以テ其築造易簡ナルヲ期ス。

漏斗ヲ爲シ及ビ第一、第三兩砲臺ニ接スルノ堤ハ多ク風浪ノ衝激ヲ受ケズル可カラズ。故ニ其築造之レニ準ジ強クシテ高カラザル可ラズ。地鑽試査ノ表ニ據レバ（殊ニ第二砲臺ノ者）下流ハ甚ダシキ沈陷ナクシテ港堤ノ重サヲ荷フニ堪ユベキヲ明ニス。而シテ年來存在セル品川砲臺ノ現存ニ由ルモ亦之レヲ證スルニ足レリ。然レドモ若シ此計畫ヲ施行スルニ方リテハ港堤ヲ築クベキ方向ニ於テ尙數多ノ地鑽ヲ施スヲ良トスベシ。

堤ヲ以テ造レル漏斗ノ心線ハ南々東ニ向フ、而シテ堤ノ頭ハ上ニ河堤ニ示スト同理ノ爲メ復々南北ノ方向ニ居ラシム。此心線ハ第二砲臺ニ交叉ス。故ニ此ノ砲臺ハ港口ニ對シテ正中ニ位ス。是レヲ以テ戰爭ノ時ニハ第一、第三砲臺ト相須テ頗ル港ヲ護スルノ利アリ。第五、第六兩小砲臺ハ恐ラク之レヲ除ク難カラザルベシ。是レ通船及潮水流動ノ爲希望スベキ處ナリ。

此ノ如ク造レル池内ニ欲スル處ノ深サヲ護ルニハ浚濬ヲ以テセザル可カラズ。其深サハ低水下二十三尺トス。是レ大汽船ヲシテ港ニ入ルノ便ヲ得セシムルガ爲メナリ。此目的ニ由リ突堤



モ亦西ノ方少クモ低水下四間ノ深線ニ達スル者トス。其他面積ノ大サハ貿易ノ爲メ要用ナル所ニ堪ユベク、棧橋及泊所ハ沿岸至ル處隨意ニ之ヲ造ルヲ得ベシ。

港堤ノ相對スル傾斜ハ若シ東突堤ヲ西突堤ト同一ニ延伸スル者ト想像スルトキ、其兩頭ノ間隔九百尺ニ及ブガ如ク撰定セリ。此所撰ノ距離ハ恐ラク進潮ニ際シテ充分ノ水量ヲ流入セシメ其ノ退潮ニ際シテ急流ヲ口ニ起サズシテ望ム所ノ深サヲ維持スルヲ得ルニ足ラム。堤ノ長サ今豫定スル不同ノ者ニ據リ間隔過大ニシテ充分ノ流レヲ起スニ足ラザルヤ否ハ實行ノ時既ニ分明ナルヲ得ベシ。其濶キニ失スルトキハ東堤ヲ伸テ須要ノ長サニ致スベシ。

前々載スル處ノ第一間ニ據レバ、只川ノ西派ヲ塞斷シ其下ノ濬ヲ浚ヒ、而シテ所浚ノ深サヲ保護シ、其濬ヲ深水ト灣中ニ結ベキ隄ヲ須ヒズシテ港ヲ造ルヲ得ルト考定セシ者ノ如シ（此間ヲ約言スレバ「今西濬ヲ塞ギ水路ヲ深クシ港ヲ隄下ニ築クノ説アリ」ト云フニ外ナラズ）然レドモ上ニ言フガ如ク墨田川江戸川ノ近傍ニ於テ潮水ノ不潔ナルト又流ノ在ラザル處ハ至ル處淺所ニ遇フ（海軍圖ヲ見ルベシ）ノ事實アルト、又此ノ如クシテ浚疏セル濬ニ於テハ聊カ流力ノ効ヲ恃ム可ラザルノ確然ナルトニ由レバ、容易ニ此港濬ノ永存ス可ラズシテ泥淤ノ爲メニ速カニ復タ用ヲ爲サ、ルニ至ルヲ知ルベシ。

是故ニ池ノ淤堆ヲ防グノ隄ヲ設クルナリ。此池ノミニ於テハ又決シテ言フニ足ルノ流ヲ見ザルベシ（但漏斗ニ於テハ然ラズ）然レドモ是レ全ク不潔ヲ拒絶スルガ爲メ流ヲ要用トセザル也（此事ニ關シテハ港策ハ勢川策ヨリモ利アリ蓋港隄ノ遠ク海中ニ出ヅルヲ以テナリ）此池ニ放泄スルノ水ハ第一靈岸島及京橋ノ市溝第二古川、第三鐵道隄後ノ溝渠ナリ。然レドモ此溝渠ハ時々浚濬ヲ加ヘテ清淨ニ保チ又古川ノ汚物ヲ送ルヲ止ムルノ制度ヲ建ツルトキハ此水ハ港池ヲ害スルコト微ナルベシ。

然リト雖ドモ爰ニ他ノ危害ノ戒心セザル可ラザル者アリ。乃チ先ヅ港池ハ全ク川ヨリ分タザル可カラザル者トセリ。若シ墨田川ヲシテ自由ニ池中ニ流入セシメントキハ、河水ハ廣キ池内ニ至テ充分ニ靜息スベク、而シテ川ノ送ル處ノ土砂ハ大抵此ニ沈底シ、其物質ノ沈澱ハ川ノ其流勢及其勾配線ト應合セル緩斜ノ底及狭小ノ廣サヲ造ルニ至ラザレバ止マザルベキハ自然ノ結果ナリ。此淤淺ヲ防ガンニハ始終浚濬ヲ行ハザルヲ得ザルベシ。是避ケザル可カラザルノ事ナリ。今ヤ所企ノ塞堤ヲ造ルト雖ドモ、川ト港トノ交通ハ靈岸島ノ溝渠ニ由テ之ヲ存セシムルヲ以テ、川ノ一部此溝渠ニ投ジテ港地ニ注泄スルノ恐アリ。川ヨリ此溝ヲ經テ池ノ深水ニ達スルノ道ハ必ラズ東孔ヲ經テ海ニ入ル者ヨリモ近カルベク、池ノ深水ニ於テハ又恐ラク干潮ノ下ルコト稍靈岸島ヨリ低カルベシ。故ニ或ヒハ流ヲ此溝ニ起シ、其狹窄ナル斷積中底及岸ヲ害シ、且川ノ汚物ノ一部ヲ港ニ致スアラン。是レ必避ケザルベカラズ。此難事ヲ救フニハ靈岸橋ノ近



傍ニ於テ退潮ノ際河水ヲ遮ルノ閘門ヲ築カザル可ラズ。

川ヨリ江戸橋及白魚橋ヲ經テ港ノ方ニ導クノ溝渠モ亦少シク河水ヲ致スヲ得ベシ。然レドモ此路ハ甚ダ遠キヲ以テ恐ラクハ爰ニ自由ノ交通ヲ存セシメテ可ナラン。

此故ニ港ト川トノ交通靈岸島橋ヲ經ル者ハ只高水(滿潮)ノ際聊カ妨ナキヲ得ルノミ。若シ此ノ交通ヲ低水(干潮)ニ備ヘント要セバ、右ニ言フ處ノ閘ヲ行舟閘ト爲サザル可カラズ。其製ハ川ノ方ニ開ク處ノ扉ヲ具スル者ナリ。

港隄ノ頭ノ近傍深線ノ事ニ至テ尙注目セザル可カラザル者ナリ。乃チ港口ノ近傍ニ現在セル河流、殊ニ多摩川ノ如キハ每年多量ノ汚物ヲ海灣ニ致スベク、西港隄ト第一第四砲臺ト陸岸トノ間ナル瀉ハ漸ク淤堆スベク、又二間三間及四間ノ深線ハ漸ク海ノ方ニ移遷スベキヲ期ス。故ニ三間ノ深線(海軍圖參照)ハ漸ク港隄ノ頭ニ近ツキ、竟ニ之レヲ過クベシ。此ニ於テ港隄間退潮ノ侵力既ニ所要ノ深サヲ維持スルニ足ラザルトキハ、後來隄ヲ延伸セザルベカラズ。其方尙ハ最初ノ者ニ倣フ歟、或ハ航入ヲ狹窄セザル爲之レヲ平行スル歟、時宜ニ從フベシ。此事情ニ由リ幾多ノ星霜ヲ經バ其延伸ヲ要スルハ豫メ之レヲ知ルベシ。但シ豫メ之レヲ定ムル能ハザルノミ。

予曾テ灣中潮流ノ方向ヲ調査セシムルヲ請ヒ、而シテ其所得ノ方向ヲ第三、第四圖ニ載セタ

リ。其方向ハ凡ソ所撰ノ港口ノ心線ニ從フノミ、深線ノ方向ニ於テ此心線ニ垂直ナル潮流ハ一モ之アラズ、其流ノ現在スルアリシトキハ、港口推淤ノ恐少カルベシト雖ドモ、勢此ノ如キヲ以テ後來延伸ノ免ル可カラザルヲ知ルナリ。

結局尙一言スベキ者アリ。此港策ニ據レバ川ハ東孔ヲ經テ海ニ注ガザル可ラズ。

西孔ヲ經テ放下スルニ方テ川ヲ制治スルノ計畫ハ上ニ之レヲ論ゼリ。東孔ヨリ放下スルニ於ケルモ亦其主眼考案右ト相同ジ、河口ノ改修ハ港策ノ行ハル、ニ遇フテ其主要ヲ失ハンモ、内地舟漕ノ便ニ至テハ決シテ川ノ天運ニ放任スル能ハザルナリ。

川策ニ用ユルガ如キ方法ヲ用ヒ、兩國橋ヨリ低水下六尺乃至七尺ノ深線ニ至ルマデ川ヲ制治スルハ切ニ之レヲ希望ス。而シテ永代橋ヨリ東孔ノ外端ニ至ルマデ局部ノ制治ヲ加ヘ(第三圖ニ紅線ヲ以テ記ス者ハ此局部ノ制治鉛筆ノ線ヲ以テ畫スル者ハ緩ナル彎曲ニ沿ヒ尙ホ遠ク右方ノ制線ヲ延伸スベキ方向ヲ示スナリ)尙第八斷積及新濬ヲ浚疏シ(深サ四尺乃至五尺)之レニ據テ川ヲ海ニ放下セシムベキハ已ムヲ得ザルノ事業ナリ。

此予ガ已ムヲ得ズトスル工事ノ行ハレザルトキハ川ハ砂洲ノ爲メニ其流ヲ妨ゲラルベシ。其砂洲ハ則堰埭ノ如キ働キヲ爲シ、川ノ水面ヲ亢隆シテ勾配ヲ減ジ、從テ速力ヲ失フベシ。其果ハ河水ノ含有スル固形物ヲ沈底シ爲メニ河床ノ堆淤即舟漕ノ妨害ヲ生ズルナリ。



第一ニハ川ヲシテ東京貿易ノ用ヲ爲スニ至ラシムルノ方法、第二ニハ墨田川ノ助ヲ借ラズシテ東京ヲ大船ノ出入スル港場ト爲スニ緊要ナルノ工業、次ニ此計畫ヲ實施スルニ由テ各期待スベキ結果ヲ併セ論ズル既ニ如此、今ヤ既知ノ狀勢ニ於テ孰レノ計畫ヲ用ユルノ最良トスルヤノ問題ニ至レリ。此間ニ答フルハ蓋難キニアラザル也。

日本ノ首府ナル東京ニ在テハ大商船並ニ軍艦ノ出入ニ堪ユル良港ヲ備フルノ重要ナルニ注意シ、又海ト交通ノ不便ヲ問ハズ今已ニ東京ニ擴張セル商運ヲ觀察シ、又人口百萬ヲ有シ廣大ナル沃野ノ端末ニ位セル市域ヲ以テ此貿易ニ與フル非常ノ繁盛ニ着眼スルトキハ、則第一ニ港策ニ密結セル財用困難ハ此策ノ施行ニ由テ東京ニ呈スル大利益ヲ以テ之レヲ償フニ餘リアリト決斷スベシ。是敢テ此計畫ノ川策ニ勝レリトスル所以ナリ。

結局尙一言スベキ者アリ。若夫財用或他ノ事故ノ爲メ港策ヲ採ラズ、川策ヲ用ユルニ決スルトキハ後年ニ至リ爰ニ辯スル精神ヲ以テ港ヲ造ルモ亦能ハザルニ非ルベシ。但毎時極メテ困難ニシテ尙多額ヲ費スアラザレバ施ス能ハザルニ至ランノミ。

東京千八百八十一年十一月二十四日

工師 アト、テー、エル、ローウエンホルスト、ムルドル

土木局長 石井省一郎殿

明治十四年十二月

東京府御用掛 熱海貞爾譯



## 市區改正及築港ニ關シ入府稅法ノ 義ニ付上申

卑職向キニ市區改正並ニ品港築港ノ意見ヲ草シテ之レヲ進達セシニ、改正案ハ既ニ政府ノ嘉納スル所トナリ、今現ニ其審査會議ニ付セラル、ニ至レリ。想フニ築港ノ案モ亦政府ノ採納ヲ得テ其審査會議ニ付セラル、ハ應サニ遠キニアラザルベシ。是レ彼此互ニ親密ノ關係ヲ有シ、須臾モ相離ルベカラザレバナリ。此ニ至リ前言ヲ履ミ其費金ヲ得ルノ方法如何、及其年々起業ノ多少等ヲ仔細ニ講明シテ、以テ政府ノ採擇ヲ請フハ蓋シ是レ卑職ノ今日止ムベカラザル者トス。

今試ミテ之レヲ案算スルニ、改正ニ要スル金額ハ二千四百萬圓ニシテ、築港ノ爲メニ費スベキモノ一千二百萬圓トス。之ヲ其改正ト共ニ行ハザル可カラザル水道及下水ノ改良費ニ合算スレバ、殆ント四千五百萬圓ニ上レリ。今ヤ國庫ニ向テ之レヲ仰ガン乎、政府ノ歲計比年困難ヲ極ム、之レニ加フルニ陸海軍ノ擴張セザル可カラザルノ要アリ。紙幣ノ消却ニ充テザルヲ得ザルノ急アリ。之レヲ地方稅ニ求メン乎、其費額歲々多キヲ加へ、近來農家困弊ノ餘殃ヲ受ケ、

通常ノ經費猶且ツ其賦課ニ堪ヘザルノ嘆アリ。然ラバ則チ他ニ之レヲ求ムルノ方策ナシ。遂ニ其工ヲ起サザラン耳。然ト雖ドモ其工ヲ起シテ以テ府下ノ永遠ノ利益ヲ圖ラザルヲ得ザル理由ハ、卑職既ニ其意見書中ニ縷述セルガ如シ。則チ如何ノ方法ノ能ク其目的ヲ達スルコトヲ得ベキヤ。是レ實ニ至緊至要ノ問題タリ。夫レ事業ニ經常臨時ノ別アリ、其經常ノ事業ハ經常ノ費途ノ能ク之レヲ辨ジ得ベキモ、苟クモ臨時ノ事業ニ至テハ特ニ其費途ヲ求ムルニ非ラズンバ決シテ之レニ應ズルコト能ハザルナリ。今夫レ市區ノ改正ヤ、品海ノ築港ヤ、誠ニ之レ江戸創造以來未ダ曾テ有ラザルノ一大事業ニシテ、其費額亦甚ダ巨ナリ。乃チ之レ經常費途ノ能ク之レニ應ジ得ベキ者ニ非ザルヲ以テ特ニ其費金ノ出所ヲ求メザルヲ得ザルヤ知ル可キ耳。

特ニ其費金ノ出所ヲ求ムルハ新タニ府債ヲ募ルノ法ヲ設クルニ在リ。是レ庶幾クハ以テ多年ヲ期シ、府民ノ能ク其巨額ヲ負擔スルコトヲ得ルノ良法ト爲スニ足ラン。而ルニ我國未ダ曾テ府縣ニ負債ヲ起サシムルノ制ナシ。今ヤ新タニ此般ノ制ヲ設クルハ甚ダ重大ノ問題ニ屬ス。故ニ暫ク他ニ恰當ノ方法ヲ求メ以テ他日其論定ノ日ヲ待ツニ如カザルナリ。

所謂恰當ノ方法トハ入府稅ノ法ヲ設クルニ在リ、之レ府外ヨリ府内ニ輸入スル物品ノ中ニ付種類ヲ撰ミ特ニ其稅ヲ課スルノ謂ニシテ、佛語ノ所謂(ヲクトロアー)是レナリ。歐洲大陸諸國ノ都府ニ於テハ大抵此法ノ設ケアラザルハナシ。之レ其課稅間接ニシテ烏合且奢侈ノ市民ノ



之ヲ感ズルノ少キト、其區域狭少ナルガ故ニ其費ス所至少ニシテ其得ル所却テ甚ダ多キヲ以テナリ。依テ今試ミニ別紙方案ノ如ク入府税法ヲ施行スル者トセバ、其費ス所毎年僅カニ五萬圓ヲ出ズシテ、其得ル所殆ント一百万圓ニ上ル可シ。之レヲ以テ彼ノ事業ニ充ン乎、固ヨリ國庫ヲ煩ハスコトナク、又府民ヲ少シモ傷フコトナク、而シテ其改正築港共ニ能ク其目的ヲ達スルコトヲ得ベキナリ。是レ卑職ガ恰當ノ方法ト云ヘル所以ナリ。

或人曰ク、方今物價低落ノ餘弊ヲ受ケ、朝ニ閉戸ヲ見、夕ニ鎖店ヲ聞ク、府民ノ困弊斯時ヨリ甚ダシキハナシ。加之地方税及區町村費ノ賦課亦近來其極度ニ達セリ。而シテ又新ニ殆ント一百万圓ノ巨額ヲ課ス。乃チ苛甚ノ誹ヲ來スコト無ンヤト。是レ即今世事ヲ談ズル者ノ套語タリ。意フニ之レ紙幣ノ價格著シク低落セシ當時ノ浮利ヲ得ル能ハザルヨリ、其幻夢ヲ追想セルノ言ニ過ギザルノミ。商賈ノ多キ或ハ其業ヲ休ミ、或ヒハ其店ヲ鎖ス者亦之レアラン。是レ投機ノ殃ニ因ラズンバ則チ必ラズ時勢ヲ誤認セルニ起レル者ナリ。固ヨリ彼ノ農民ノ其心ヲ苦シメ、其體ヲ勞スルモ得ル所猶其勞ヲ償フコト能ハザルモノト、日ヲ同フシテ語ル可カラザルナリ。今ヤ財政其宜ヲ得、而シテ紙幣物貨共ニ其本然ノ併位ニ復セントスルノ秋ナリ。之レ大イニ慶賀スベク決シテ甚ダ憂フ可キノ時ニ非ザルナリ。且ツ夫レ都府ナル者ハ一國文明ノ燒點ニシテ、百般ノ事物茲ニ湊合セザルハナシ。故ニ他ノ決シテ得ベカラザルノ快樂モ茲ニ於テ享ク

ベキナリ。既ニ其利益ヲ得其快樂ヲ享ク、是レ府民ノ負荷鄙民ヨリ一層重カラザルヲ得ザル所以ナリ。而ルニ今我東京府ヲ以テ他ノ府縣ニ較ブルニ、其負荷ノ輕キコト多ク其比アルヲ見ズ。況ンヤ王公アリ貴人アリ縉紳アリ巨商アリ其富海内ニ冠タルニ於テオヤ。所謂其極度ニ達ストハ卑職其何ニ據ルコトヲ知ラザルナリ。

又曰ク、入府税ヲ設クルノ說甚ダ良シ、然レドモ其得ル所僅ニ一百万圓ニ出デズシテ其要スル高ハ殆ント五十萬圓ノ巨額タリ。乃チ大海ノ涓滴ニ類スルコト無ンヤト。夫レ五十萬圓ハ實ニ巨額ニシテ、改正及ビ築港ハ未曾有ノ一大事業タリ。今マ毎歲八九十萬圓ヲ費スモ五六十年ノ星霜ヲ經ルニ非ザレバ其功ヲ竣ルコト能ハザルヤ明カナリ。或氏ノ冷笑ヲ來ス亦理ナキニ非ザルナリ。然リト雖トモ其改正築港ノ一日モ忽諸ニ付スベカラザルヲ知ラバ、則チ其年所ノ長短敢ヘテ問フ可キ所ニ非ザルナリ。且ツ卑職之レヲ多年ノ實驗ニ徵スルニ、天ニ陰晴アリ地ニ廣狹アリ、又タ吏員ノ數ニ限度アリ、每歲一百万圓ノ工業ヲ起スコト甚ダ難事ニ屬ス。況ンヤ三百年來ノ都府ヲ改良スルハ新タニ都府ヲ廣野ニ劃スルトハ大イニ其趣ヲ同フセズ。力之所及其業ヲ害セズ其產ヲ破ラズ必ラズヤ變ニ處シ、機ニ投ジ徐々其歩ヲ進メザルヲ得ザルニ於テオヤ。或氏深ク之レヲ考ヘザルノミ。

今地方ノ制度ニ由レバ、凡ソ經常ト臨時ヲ論ゼズ、大小ノ事皆地方税ノ負擔ニ屬ス、故ニ常



理ヲ以テ論ズルトキハ此業ノ如キモ亦地方税ノ負擔トナシ、而シテ其費金支辨ノ方法等悉ク府會ノ議ニ付セザルヲ得ザルナリ。而ルニ卑職方今府縣會ノ形勢ヲ觀ルニ、往々進取企業ノ念慮ニ乏シク、動モスレバ必要缺ク可ラザルノ費額ヲモ猶且ツ減縮シ、以テ地方ノ政務ヲ阻礙スルノ弊少シトセズ。今マ入府税ヲ以テ地方税ノ便ヲ取り、以テ通常費途ニ充ツルニ至ルハ決シテ疑ヒヲ容レザルナリ。尙ホ何ゾ其他ヲ望ムベケンヤ。是故ニ政府幸ヒニ此方案ヲ不可トシ之ヲ却クコトナクンバ、其費途ニ關スル一切ノ事業ヲ舉ゲテ之ヲ東京府知事ニ委シテ其專行スル者トシ、而シテ亦他日府會ノ意向眞ニ定マルノ時ヲ待ツニ如カザルナリ。然ルトキハ百般ノ施爲一途ニ出テ以テ彼此相阻礙スルノ患ナキヲ得ベキナリ。

然リ而シテ改正ヤ築港ヤ果シテ其工ヲ起スノ場合ニ至ルトキハ、則チ能ク其時ト場所ノ緩急ヲ計リ、徐ニ其歩ヲ進ムベキハ論ナキノミ。然リト雖トモ事ニ機アリ、物ニ變アリ其事物ノ機變ニ遭遇シテ一時巨大ノ金額ヲ要スル場合ナキハ決シテ保ツコト能ハザルナリ。故ニ斯ル場合ニ遭遇スルトキハ或ヒハ一時國庫ヨリ假リニ之ヲ支辨シ、或ヒハ此入府税ヲ一時抵當トシテ銀行等ヨリ之ヲ借入スル等豫メ政府ノ許可ヲ得ズンバアラザルナリ。

夫レ市區ノ改正セザル可カラザルヤ如彼其レ急ニ、品海ノ浚鑿セザル可カラザルヤ如此、其レ要ナリ。今マ能ク其急ト要トニ應ズルコトヲ得ル者ハ唯タ是レ入府税ヲ起スノ一法アルノミヲ。謹言

明治十八年三月二日

東京府知事 芳川 顯正



# 入府税規則草案

## 第一條

左ニ掲グル線内ヲ以テ入府税施行ノ區域トス。

東京府荏原郡南品川獵師町海岸標柱ヨリ線ヲ起シ、同町ト同郡南品川宿トノ經界ニ沿ヒ、目黒川ニ至リ、同川北岸ニ沿ヒ同郡上目黒村大鼓橋ニ至リ、行人坂ノ西側ニ沿ヒ鐵道線路ニ至リ同線路ノ北側ニ沿ヒ玉川上水路ニ至リ、同水路ノ北岸ニ沿ヒ南豊島郡角筈村玉川上水分水口ニ至リ、同水路ノ北岸ニ沿ヒ神田上水路ニ至リ、同水路ノ東岸ニ沿ヒ鐵道線路ニ至リ、同線路ノ東側ニ沿ヒ瀧ノ川ニ至リ、同川ノ南岸ニ沿ヒ荒川ニ至リ、同川ノ南岸ニ沿ヒ千住大橋ニ至リ、同橋ノ東ニ沿ヒ荒川ヲ渡リ其北岸ニ沿ヒ綾瀨川ニ至リ、同川ノ西岸ニ沿ヒ古綾瀨川水門口ニ至リ、同川ノ南岸ニ沿ヒ中川ニ至リ、同川ノ西岸ニ沿ヒ南葛飾郡砂村海岸ニ至リ、同海岸ノ標柱ヨリ海岸ニ沿ヒ南品川獵師町海岸ノ標柱ニ至ル。

## 第二條

入府税ハ前條ノ區域内ニ於テ河渠道路橋梁ヲ改良シ及ビ港灣ヲ修治スル工事ノ費用ニ充ツル者トス。

## 第三條

入府税ヲ賦課スベキ物品及其税額左ノ如シ。

- 一、清酒、味淋、銘酒、燒酒、蒸溜酒、再溜酒 一升ニ付 税金一錢
- 一、醬油 一升ニ付 税金五厘
- 一、鹽 一斗ニ付 税金一錢
- 一、魚、貝、海獸肉 一貫目ニ付 税金五厘
- 一、鰹節 百目ニ付 税金五厘
- 一、米、大豆、小豆、豌豆、蠶豆、穀粉 一斗ニ付 税金二錢五厘
- 一、粃、大麥、小麥、裸麥、蕎麥 一斗ニ付 税金一錢五厘
- 一、茶 一貫目ニ付 税金十二錢
- 一、炭 一貫目ニ付 税金五厘

## 第四條

入府税規則草案



前條物品ト雖ドモ左ニ掲グル者ハ課税ノ限ニ非ラズ。

- 一、官用ニ供スル爲メ官廳ニテ買入レ運入スル者、
- 一、自己ノ耕地ヨリ自作ノ穀類ヲ自宅ニ運入スル者、
- 一、一人ニテ一日ニ運入スル物品第三條ニ掲ゲタル數量ニ滿タザル者、

第五條

入府税ハ左ニ掲グル番所ニ於テ徵收スベシ其位置管轄左ノ如シ。

番	所	名	位	置	管	轄
深	川	番	所	未	定	未
大	川	端	町	同	同	同
船	松	町	同	同	同	同
明	石	町	同	同	同	同
新	橋	同	同	同	同	同
金	杉	川	同	同	同	同
上	野	同	同	同	同	同

品	川	口	同	同	同
大	崎	口	同	同	同
目	黒	口	同	同	同
廣	尾	口	同	同	同
宮	益	口	同	同	同
角	筈	口	同	同	同
淀	橋	口	同	同	同
高	田	口	同	同	同
大	塚	口	同	同	同
板	橋	口	同	同	同
王	子	口	同	同	同
千	住	口	同	同	同
綾	瀬	口	同	同	同
曳	船	口	同	同	同



木下川口	同	同
龜戸口	同	同
堅川口	同	同
小名木口	同	同

第六條

課税品ヲ第一條ノ区域内ニ運入スルトキハ其品目數量ヲ管轄番所ヘ申立、税金上納ノ上運入ノ年月日時及物品ノ數量稅額ヲ記載セル番所ノ領收書ヲ受クベシ。

第七條

線路接近ノ者番所ニ由ラズ他道ヨリ課税品ヲ運入セント欲スルトキハ、豫メ前條ノ手續ヲ以テ税金ヲ戸長役場ヘ上納シ領收證書ヲ受置キ運入ノ際番所派出官吏ニ示シ年月日時ノ記入及認印ヲ受ケ運入スルコトヲ得ベシ。

第八條

收税官吏及警察官吏ニ於テ取締上要用ト認ムルトキハ、課税品ハ勿論課税外ノ物品ト雖トモ運入又ハ通行ノ際之ヲ検査スルコトアルベシ。

第九條

課税品ヲ竊カニ運入シタル者ハ其物品ヲ沒收シ、其品目數量ノ申立正當ナラズ税金ヲ脱シ運入シタル者ハ其脱税ノ物品ヲ沒收スベシ。

第十條

前條ノ犯則者ハ東京府知事之レヲ處分シ沒收シタル物品ハ分賣シテ入府稅徵收ノ費途ニ充ツベシ。

入府稅規則草案說明

入府稅ヲ課收セントスルニハ先ヅ市區ノ周圍ニ稅關ヲ設クルヲ肝要トス。然ルニ市區即十五區ノ地形タル中央數區ヲ除クノ外ハ概ネ往來繁盛ノ道路ニ沿フテ八方ニ突出シ、其中間ニ村落又ハ寂寥ノ地ヲ抱キ、道路錯雜多岐ニシテ關ヲ設ケ稅ヲ徵收スル殊ニ困難ナリ。故ニ本案ハ郡區ノ經界ニ拘ハラズ十五區ノ周圍ニ於テ河川鐵道等容易ニ踰越スベカラザル地勢ニ依リ經界ヲ



立テ、皇城ヲ中心トシテ略圓形ヲ爲シ、樞要ノ道路運河ノ入口ニ番所ヲ置キ、始メテ抽税ノ便ヲ得ベシ。是第一條ノ區域及第五條ノ番所位置ヲ規定スル所以ナリ。又第二條ニ於テ入府税ノ費途ヲ明示スル所以ハ、外國條約上ニ於テ日本ノ產物ハ陸路水路修復ノ爲メ諸商賣ニ付取立ル通例ノ運上ノ外、別ニ運送ノ運上ヲ收ルコトナク、日本人ハ日本ノ内何レノ地ヨリモ諸開港場へ運送スルコト勝手タルベシト之レアルガ故ニ、此入府税ナルモノハ他ニ支用スルニ非ズシテ特ニ水路陸路ノ修治ニ充ツルガ爲メニ徵收スルトノ趣意ヲ明示スルヲ要スレバナリ。又第三條課税品ニ於テハ其徵收ノ總額百萬圓ヲ以テ目的トスルガ故ニ、專ラ收税ノ便ヲ主トシ、第一區域内ニ於テ偏ク消費スル物品、第二一旦運入シテ再ビ運出スルコトノ極メテ少ナキ物品、第三價格貴賤ノ差等多カラザル物品、第四検査ノ容易ナル物品ヲ撰取セリ。然レドモ實施上時世ノ進歩商況ノ變遷物産ノ盛衰等利病得喪ノ現ハル、所アレバ即チ之レヲ取捨斟酌シ、凡百ノ物品ニ就キ是ニ課シ彼レヲ除スルヲ要スルコトアルベク、又課税品ニ於テモ其價格ノ低昂ニ應ジ時トシテ税額ヲ増減スルコトアルベシ。要スルニ市區改正築港ノ資費ニ供スルニ足ルベキ金額ヲ適當ナル物品ニ就キ之レヲ徵收スルニ在ルナリ。又第四條課税セザル者ヲ定ムル趣意ハ其第一項ノ如キ固ヨリ官用品ニシテ課税スベキモノニ非ラズ、第二項ハ外國條約上ニ於テ課税スルヲ得ズ、第三項區域内ノ農民ニシテ區域外ニ耕地ヲ有スル者ハ南北東ノ三方河渠ヲ以テ經界ト

爲セシ地ニハ其數僅少ナリト雖ドモ、西方ノ一部分ハ鐵道ヲ以テ經界ト爲シ、耕作通行ノ爲メ設ケタル踏切道ノ數多シ。故ニ多少穀物ノ運入アルベシト雖ドモ大體上ヨリ觀察スレバ僅少ノ運入ニ止マリ其得失ヲ計ルトキハ却テ課セザルヲ益トス。故ニ之レヲ免税セリ。第四項少量ノ物品ヲ免税スル者ハ一瓢ノ酒數尾ノ魚モ一々之レニ課税スルモノトスレバ、納税者其煩ニ堪ヘズ、且ツ商品トシテ運入スル者ハ其荷造ニ自ラ習慣アリ、本案ノ主旨ハ荷造ヲ爲シタル商品ニ課税スルニ在テ少量瑣細ノ物品ヲ免税スルモ固ヨリ大計ニ關係ナキヲ以テナリ。第五項ハ區域内通過品ノ最モ著シキ者ヲ免税スルノ趣意トス。凡ソ入府税法ニ於テ線域内ヲ通過スル物品ヲ免税スルハ之ヲ佛國ノ例ニ照スニ闕クベカラザル者ニ似タリ。然ルニ本案汽車又ハ船舶ニハ通過スル者ヲ免税シ、車馬ニテ經過スル者ヲ免税セザル者ハ本府現今ノ狀況ニ於テ然ラザルヲ得ザルガ故ナリ。若シ車馬ニテ運送スル者ヲ免税セントスルトキハ入口ノ番所ヨリ出口ノ番所マデ收税吏ヲ付スルカ、又ハ其ノ荷物ヲ官庫ニ領置スルカ又ハ其荷物ヲ入ル倉庫ニ封印シ、以テ通過ヲ檢認セザレバ取締ヲ爲ス能ハズ。斯クノ如クスレバ收税費ニ於テ本案豫算ノ幾倍ヲ要シ得ル所失フ所ヲ償ハズ。納税者ニ於テモ斯クノ如キ繁雜ナル手數ヲ爲サンヨリ寧ロ税金ヲ納ムルヲ以テ簡便ト爲スベシ。故ニ通過品中最モ多量ニシテ繁雜ノ手數ヲ要セザル汽車船舶ノ通過品而已ヲ免税スル者トセリ。然レドモ課税品ハ都テ區域内ニ於テ偏ク消費シ通過ノ極メテ僅少



ナル物品ノミ撰取シタルヲ以テ、車馬ニテ通過スル僅少ノ物品ニ免税セザルモ商況ニ影響ヲ及ボス程ノ弊害ナキハ信ジテ疑ハザル所ナリ。又第六條以下收税順序等成ルベク繁ヲ避ケ簡ニ就キ此方案ヲ草製セリ。

### 入市税一ケ年徴收豫算

課説品目	價格概計	數量概計	税率數量	同上課額	税金額
清酒、味淋、銘酒、燒酒、再溜酒、蒸溜酒	四、八三、一八〇 <small>圓</small>	三八、七八 <small>石</small>	一升	一錢	三三、五三 <small>圓</small>
醬油	四九六、四〇〇	七三、〇〇 <small>石</small>	一升	五厘	三六、五〇〇
鹽	二八四、〇六七	一九、六五 <small>石</small>	一斗	一錢	一九、八六五

### 入府税徴收費豫算

魚貝海獸肉	三、五〇、九四五	二九、七五、八〇〇 <small>貫</small>	一貫目	五厘	一四八、七六九
鰹節	一三、二七七	一五、八四 <small>貫</small>	百目	五厘	七、六四二
米、大豆、小豆、豌豆、蠶豆、穀粉	八、八〇、六八三	一、二九〇、九八 <small>石</small>	一斗	二錢五厘	三三、七四七
蕎麥、大麥、小麥、裸麥	二九六、〇〇〇	九、五〇 <small>石</small>	一斗	一錢五厘	一三、七三五
茶	五六七、一九八	一八九、〇六 <small>貫</small>	一貫目	十二錢	三三、六八七
炭	一六九、九九	二五、〇九八、八〇〇 <small>貫</small>	一貫目	五厘	一〇〇、三九五
合計					九九七、八六三

番所	同上	收稅吏員	小使吏員	番所建物	同上地坪	俸給雇給	給與	備品修繕新調	消費品代	修繕費	雜費
----	----	------	------	------	------	------	----	--------	------	-----	----



一等	二	二〇	一三	六〇	三〇〇	四、四六四	四六六	一六〇	四八〇	六〇	一六〇
二等	五	四〇	二五	二五	六二五	九、〇〇〇	九〇〇	三三五	九七五	二二五	三二五
三等	二	二二	八	四〇	二〇〇	二、七三六	二七三	一〇〇	三〇〇	四〇	一〇〇
四等	七	二八	二二	一〇五	五二五	六、五五二	六五五	二四五	七三五	一〇五	二四五
五等	一〇	二〇	二〇	五〇〇	五〇〇	五、〇四〇	五〇四	二〇〇	六〇〇	一〇〇	一〇〇
合計	二六	一二〇	八六	四三〇	二、一五〇	二七、七九二	二、七八	一、〇三〇	三、〇九〇	四三〇	九〇〇

通常費合計金三萬六千五百五拾圓

一、金八千百十二圓

是ハ巡吏五十二人一人費額十三圓宛

通計金四萬四千六百六十二圓

◎創業ノ際一時費用概算

一、金八千六百圓

番所四百三十坪建築費

(每坪ニ付平均金二十圓宛)

一、金二千百五十圓

番所敷地二千百五十坪買上料

(一坪ニ付平均金一圓宛)

一、金一萬三百圓

備品買上代

合計金二萬千五百五十圓

番所等級

船松町小名木川口ヲ一等トシ深川大川端町明石町新橋千住口ヲ二等トシ金杉川口、堅川口、  
 三等地トシ上野、品川口、角筈口、淀橋口、板橋口、王子口、綾瀬口ヲ四等トシ大崎口、目黒  
 口、廣尾口、宮益口、落合口、高田口、大塚口、曳船口、木下川口、龜戸口ヲ五等トス。



## 同伴ニ付意見

嚮キニ東京入府税法案參事院ノ議定ニ被付候節、和郎其不可ヲ論ジ幸ニシテ廢案ニ相決シ候。然ルニ再ビ同案ヲ以テ參事院議ニ被付、和郎等調査委員被申付候ニ付、固ヨリ法案取調候心得ニ御座候得共、抑モ此税法タル、歐洲ニ於テモ一困難物ノ名ヲ得、近日佛國ニ於テハ之レヲ廢セントスルニ至リ候程ノ税目ニテ、理論ハ姑ク之レヲ申上ゲズ、東京ノ如キ延袤數里ニ互リ、水陸ヨリ舟車ノ輻湊スル都府ニハ實際行フ可カラズト相考ヘ申候。元來此税御施行ノ御趣旨ハ市區改正ニ原因仕候モノニシテ、若シ他ノ方法ヲ以テ改正ニ要スル金額ヲ得候ハ、勿論此税法御施行ニ及バザル義ト奉存候。仍テ曾テ參事院議長ヘ差出置候意見書甲乙二號拜呈仕候也。

明治十八年十一月十三日

今村和郎

## 伊藤參議閣下

追テ煙草專賣法並ニ酒類酤權ノ法ハ先達テ大藏卿ヘ建議仕置キ候。今非常ノ困難ニ拘ハラズ東京ニ入府税ヲ御施行ニ相成候ハンヨリ、寧ロ煙草ノ製造販賣ヲ政府ノ專權ト爲シ、酒類ハ政府ノ特許スル釀造人ノ外一切自家用料ニ至ルマデ釀造ヲ禁止シ、其買賣ハ總ベテ政府ノ專權ニ仕リ候ハ、此二種ヲ以テ國費ノ大半ヲ辨シ可申、僅々其一分ヲ東京府ニ御下渡相成候テ市區改正ノ費用ニハ餘リ有ルコト、奉存候也。

## 東京ニ入府税ヲ行フ可ラザル論



按ズルニ歐洲入府税法ヲ行フノ邦國多シ。就中佛郎ヲ最トス。昔シ佛郎ハ兵亂打續キ府庫缺乏ヲ告ゲシヨリ、已ムコトヲ得ズ一千三百三十三年始メテ此税法ヲ施行シ、專ラ國帑ノ爲メニセリ。其後一旦之レヲ廢シタリト雖トモ、未ダ數年ナラズ之レヲ復施シ、主トシテ町村ノ爲メニセシモ、收入幾分ヲ國帑ニ納メシメタリ(現今伊太利ニ於テハ三分一ヲ國庫ニ納ムト云)一千七百九十一年都テ間稅ヲ廢スルニ當リ、併セテ入府稅ヲ廢シタリシニ、固ヨリ之レニ換フルニ税金無ク、從前地方稅ヲ以テ施行セル事業ノ中第一ニ棄廢セル者ハ學校病院ニシテ、其他諸般ノ恤救資金ハ悉ク之レヲ給セズ。街路乞兒隊ヲ爲シテ横行スルニ至ル。入府稅ヲ復施センカ、人民其非ナルヲ論ジテ已マズ、故ニ政府敢テ之レヲ復スルヲ得ズ、一千七百九十七年ニ至リ遂ニ令ヲ出シ、再ビ此稅ヲ起シタレドモ、主トシテ恤救ノ爲メニ之レヲ使用スルモノト定メタリ。今試ミニ巴黎一府ノ地方稅豫算表ヲ閱スルニ、常費我が四千四百三十二萬余圓ニシテ、入府稅收入高我が二千五百七十四萬二千餘圓ナリ。巨額ト謂フベシ。倣フテ此税法ヲ東京ニ行ハンカ百萬金ヲ得ルコト容易ナルニ似タリ。是レ議者ヲシテ入府稅ニ垂涎セシムル所以ナル可シ。然ルニ此等ノ議者ハ一ニ眼ヲ巨額ノ收入ニ眩耀セラレ、未ダ之レヲ行フノ弊害ト困難ヲ察セザル者ノ如シ。殊ニ東京ハ佛都ヨリ廣クシテ周圍牆壁無ク、又塹濠無シ。殆ント此税法ヲ行フ可カラズ。佛國ニ於テモ此税法ヲ行ヘル府邑ニ於テハ爲メニ牆壁ヲ築キタリト云フ。然レドモ其

不便弊害ハ固ヨリ之レヲ去ラズ。故ニ府民ハ囂々トシテ之レヲ訴フルト雖トモ遽カニ之レヲ廢セバ他ニ償フベキ財源ナシ。是レ未ダ廢スルヲ得ザル所以ナリ。白耳義亦此税法ヲ行ヘルコト久シカリシニ、其經濟上ノ不利ヲ感ズルコト深ク一千八百六十年斷然之レヲ廢シ、國內之レヲ行ヘル數府市ニハ國庫收入ノ幾分ヲ割テ補助セリ。歐洲ノ列國之レヲ稱シテ一大美政トス。要スルニ租稅ノ種目百般有リト雖トモ、徵收スルニ弊害困難ノ最モ多キ者ハ入府稅ニシテ、既ニ之レヲ行ヘル邦國モ之レヲ廢センコトヲ冀望スルコト猶人身痼疾ヲ治セントスルガ如シ。唯其醫療シ難キニ苦シムノミ。今我國ニ於テハ歐洲諸國ノ如ク萬般ノ稅ヲ課シ盡シタリトセズ、尙ホ課稅スベキ種目多シ。然ルヲ故ラニ此税法ヲ行ヒ不治ノ瘵ニ罹ランコトヲ求ムルハ識者ノ痛歎スル所ナリ。

今左ニ入府稅ノ弊害ト困難トヲ略陳セン。

(一) 入府稅法ヲ施サバ關稅有ル國內ニ於テ更ラニ一國ヲ作ルガ如シ。海關稅ノ設ケスラ世人之レヲ不便トス。更ラニ國內ニ關門ヲ設ケ稅ヲ徵スルニ於テハ其不便言フ可ラズシテ一般ノ貿易經濟上大ナル不利ヲ來タス可シ。

(二) 東京ニ此税法ヲ施シ一年百萬圓ヲ納ムルトセンカ、東京人口約ソ百萬人ナルヲ以テ一人壹圓ノ割合ナリ。然ルニ此稅ハ專ラ日常需用品物ニ課スレバ、貧寒大抵納額ヲ同フス。



小民一家五六口ニシテ一年五六圓ヲ納ムルハ其負擔殊ニ重シ。是レ貧富ノ衡平ヲ失フモノニシテ施政ノ須ラク戒慎シテ避クベキ所ナリ。

(三) 消糜物品中新炭其他物品ヲ製造スルノ用ニ供スル者有リ、其製造品ハ府内ノ需用ニ供スル有リ、府外若クハ海外ニ販賣スル者有リ、此等ノ物品ヲ區別セズシテ課税センカ、府内内外ニ於テ物價ヲ異ニシ府内ノ製造品ハ、其價賤貴シ爲メニ府内商賣ノ損害ヲ來スコト多シ。又之レヲ區別シテ課税センカ、是レ巴黎ニ行フ所ナリト雖トモ極メテ其方ニ苦シム。

(四) 舶來ノ物品ニハ固ヨリ入府税ヲ課スルヲ得ザル可シ。而シテ國產ノ麥酒、葡萄酒ノ類ニハ課税セズトセンカ、然ラバ富者ニ輕フシテ貧民ニ重キノ弊愈ヨ著シ。又之ニ課税ストセンカ、如何シテ舶來品トノ區別ヲ爲スベキカ。

(五) 課税スベキ物品ニシテ府内ニ製造スル者有リ、此場合ニ於テハ入府ノ名義ニ背クト雖トモ此品ニ課税セザレバ輸入品ト價格ノ差ヲ生ズ。之ニ課税センカ、百般物品ノ製造家ニハ盡ク検査官ヲ付セザルヲ得ズ。徒ラニ徵稅費ヲ増スノミ。

(六) 陸海軍其他諸官省ノ需用品ニ關シテハ如何、若シ之レニ税ヲ課セズトセバ如何ニシテ人民ノ需用品ト之レヲ分別セン。

(七) 府内ニ輸入シテ府内ニ消糜セズ、或ヒハ直チニ府外ニ通行スル物品有リ、之レヲ處スルノ方ハ難カラズト雖トモ、府内ニ滞留シ、數日若ハ數月ノ後府外ニ輸出スル物品有リ、日用百般ノ物品ニ對シテ脱税ヲ防グノ方ハ至テ難シ。

(八) 府内ニ入府税ヲ行フトキハ自然府内ノ生活ニ入費ヲ要スルコト多シ。故ニ入府税ハ貧者ヲ驅テ朱引外ニ移ラシムルノ結果ヲ來タシ、遂ニ東京ヲシテ衰頹ニ赴カシムル一原因トナル可シ。

(九) 巴黎府ハ周圍ニ壘壁有リ、塹濠有リ、府門五十有二皆鐵柵有リ、各門ニハ入府税官吏數員出張シ通行ノ馬車乗合馬車荷車通行人ノ手荷物ハ盡ク之レヲ訪査シ、辨當等飲食ノ葡萄酒ト雖トモ一瓶以上ハ必ラズ之レニ税ヲ課ス、獵ヨリ歸ル者獲物有レバ税ヲ納ム、其他鐵道ノ停車場ニハ税官ノ出張所有リ、「カバン」ノ類行旅ノ荷物ハ盡ク開キテ之レヲ訪察ス。此ノ如クセザレバ巨額ヲ得ル能ハザルヲ以テナリ。故ニ東京ニ於テ百萬圓以上ヲ得ント欲スルモ、亦大抵此ノ如クセザルヲ得ザル可シ。然ルニ東京ニハ壘壁ナシ。塹濠ナシ。門柵ナシ。到ル所通路ニシテ品川ヨリ板橋千住向島ヲ經テ深川ニ至リ、線路幾百ナルヲ知ラズ。而シテ加フルニ品川ヨリ深川ニ至ル間海岸甚タ廣シ。此間通行スル蒸汽有リ、荷舟アリ、糞舟有リ、屋根舟有リ、其數幾百千ナルヲ知ラズ。又荷車有リ、乗合馬車アリ、人力車有リ、駕籠有リ、馬有リ、牛有リ、人足有リ、陸路ヲ經テ都下ニ輻湊ス。盡ク之レヲ



訪察セザルヲ得ズ。斯クノ如ク數百ノ線路ニ數百ノ稅官ヲ出張セシメンカ、將々東京ヲ繞ラス墻壁ヲ以テシ、通行ノ線路ヲ減センカ、是レ一種ノ長城ヲ起スモノナリ。然リト雖トモ脫稅ヲ防ギ巨額ヲ獲ント欲セバ必ラズ長城ヲ築クカ、將々數百ノ稅官ヲ出張セシムルカノ二途ノ其一ニ出デザルヲ得ズ。巴黎ノ如キ城廓ヲ爲セル府ニ於テ既ニ此稅法ヲ行フコト數百年ナルモ、而カモ百分ノ五半餘ノ徵收費ヲ要ス。佛郎中其他ノ市府ニ於テハ徵稅費大抵百ノ十以上ニ至ル。我が國稅ノ徵收費ハ多キモノ(煙草、印紙ノ類)三割以上ニシテ、東京ノ入府稅ハ其一半以上ヲ以テ徵收ニ充ツルニ至ル可シ。

(十) 朱引ノ内外相接スルトキハ僅カニ一路一川ヲ越エテ物價ヲ異ニスルヲ以テ、脫稅ヲ防グコト極メテ難シ。是故ニ佛國ニ於テハ一府ノ民入府稅ヲ願ヒ、之ヲ許ストキハ地形ニヨリ外郭ニ於テモ亦強テ之レヲ行ハシムルコト有リ。東京ニ於テ之レニ倣ヒ、品川千住等盡ク之レヲ行ハシメンカ、益々徵稅費ヲ要スルノミ。

(十一) 要スルニ入府稅ノ經濟上併ニ課徵公平不公平ノ論ハ姑ク之レヲ措クモ、東京ノ地形ヲ以テシテハ實際ニ於テ施行スル能ハザルナリ。大政府ノ命令ヲ以テ一ヶ年一百萬金ヲ得ルコト難カラズ、他ニ方法數般有ル可シ。

### ◎附 言

近月入府稅ヲ言フ者皆則ヲ佛郎ニ取ル、故ニ今一千八百八十二年「コーウエース」氏著述ノ書中ヨリ入府稅ニ係ル一段ヲ抄譯シ、彼國ニ於テモ將サニ此稅ヲ廢セントスル傾向有ルヲ示ス。

白耳義ニ倣ヒ入府稅ヲ廢スルノ論者極メテ多シ。意フニ我國都巴黎ニ於テハ此稅ノ收入巨額ニシテ白耳義ノ比ニ非ラズ、遽カニ之レヲ廢シ難シト雖トモ幸ニシテ諸般ノ營業漸ク繁盛ニ赴キ、加フルニ負債ハ年々ニ減ジ、遂ニ直稅幾分ヲ增課シ入府稅ヲ廢スルニ至ルハ吾儕ノ信ジテ疑ハザル所ナリ。近日國會ニ建議シテ此稅ノ廢止若クハ改正ヲ爲シ、漸々廢止ニ至ルノ案ヲ提出スル者多シ。利害得失ヲ論ズルコト甚ダ詳カナリ。殊ニ議員メニエーノ建議(一千八百八十年三月五日ノ官報ニ載セリ)議員ロクローアノ建議(一千八百八十一年ノ官報第千八百〇五丁ニ在リ)及ビ議員ギョーノ建議ヲ參觀ス可シ。ギョーノ建議ハ一千八百八十二年五月二十二日ノ會議ニ於テ大體ヲ可決セリ。又一千八百八十年巴黎府地方稅豫算表ヲ閱スルニ其費中殊ニ吾儕ノ眼ニ觸ル、者左ノ如シ。

一、金二千一百二十七萬二千四百九十三圓餘

府債償却金



- 一、金三百零二萬九千零七十三圓 恤救諸費
- 一、金二百六十九萬八千五百二十八圓 小學及大學諸費
- 一、金二十三萬二千七百八十圓 大學生徒學資費
- 一、金九十六萬八千一百九十三圓 學校等建築並美術ニ係ル費
- 一、金十二萬九千三百十七圓餘 年金並ニ給與
- 一、金一萬四千百圓餘 宗教費
- 一、金二十萬零四千三百零一圓餘 埋葬諸費
- 一、金十一萬九千八百八十圓 兵營等諸費
- 一、金六十三萬二千百六十圓 檢兵諸費
- 一、金百三十九萬六千六百二十圓餘 入府稅徵收費
- 〆金三千零六十九萬七千四百四十五圓餘

其他府廳、警視廳、戶長役場、府有財產並ニ諸市場ノ幹理道路用惡水、公園等諸費用合計左ノ如シ。

- 一、金一千三百六十二萬五百五十五圓

此費目ヲ視テ正ニ知ル、巴黎ニ於テハ巨額ヲ費スモ我が國ノ地方稅費目ニ屬セザル者多キコ

トヲ、而シテ教育恤救ノ爲メニハ殆ンド七百萬ノ資金ヲ給ス。斯ノ如キ事業有ルヲ以テ入府稅ヲ行フハ實ニ已ムヲ得ザルニ出デタルナリ。抑モ入府稅ハ稅率ヲ高クシ收獲ヲ數倍ナラシムルモ、徵收費ハ大ナル増嵩ヲ爲サズ、佛郎ノ如ク巨額ヲ課徵セバ割合ニ於テ純益固ヨリ多カル可キモ、僅カニ一百万圓内外ノ小額ヲ徵收セバ出入相償ハルザヲ懼ル。然リト雖ドモ東京ニ於テ非常ノ重キ稅率ヲ行ハ、人民其負擔ニ堪ヘズ、中家以下ノ民ヲ驅テ府外ニ移轉セシムルノ結果ヲ來タス可シ。到底東京ニ於テ入府稅ヲ行ヒ難キコト此ノ如シ。冀クハ深ク考察セラレシコトヲ。



## 東京市區改正論

夫レ市區改正ノ事タル便益ノ少小ナラザルハ今復々喋々ヲ要セズ。故ニ專ラ其如何ヲ論ズレバ誰カ之レヲ非ト爲ス者有ラン。然リト雖ドモ事ニ緩急有リ時ニ先後有リ、殊ニ市區改正ハ半バ奢華矜誇ニ屬ス、今日之レヲ東京ニ行フニ於テハ甚ダ不可ナリ。蓋シ民業繁盛國力富實ノ時ニ至リ、始メテ施ス可キ開明ノ餘業ナリ。歐洲諸國ノ都城ヲ歴覽スルニ此業ヲ起スハ日尙ホ淺ク大抵他ノ大ナル國事ノ成功セルノ後ニ在リ。佛朗西ノ如キハ歐人之ヲ評シテ道路市街ノ觀美ヲ街フノ瘠有ル民ト曰フ。而シテ其都城巴黎ノ改築ヲ始メタルハ實ニ一千八百五十二年トス。此時巴黎ノ景況タル街路極メテ狹隘ニシテ屈曲斜行シ、五層若クハ六層ノ家屋ヲ以テ之レヲ狹ミ、建築稠密ニシテ日光下層ニ至ラズ。其狀恰モ礦山ノ地道ノ如ク、一二層ニ住スル婦女幼童ノ多ク外出セザル者ハ色青白ニ變ジ、健康ヲ害セラル、コト少カラズ。又匪類兇徒ノ此ニ入ル者ハ殆ンド搜索ス可カラズ。加フルニ當時三世拿破倫ガ人望ヲ博シテ帝位ニ昇ラント欲スル策略有リ、又巴黎ヲ改築スルトキハ大ニ外國人ノ來遊ヲ増シ、商賣ノ利ヲ得ル甚ダ大ナル有リ、以テ

始メテ此業ヲ起シタルモ而カモ尙成功ヲ六七十年ニ期ス、歐洲列邦殷富ナリト雖ドモ市區改正ニ汲々タラザルコト此ノ如シ。他ナシ其事ノ不急ナルヲ知レバナリ。顧フニ日本ノ形勢タル歐米各國ト交際ヲ始メテヨリ以來獨立ノ名損ズル所有リ、今日ニ至リ未ダ完全タルヲ得ズ。苟クモ愛國心有ル者ハ臥薪嘗膽日夜國威ノ恢復ヲ是レ勉メ、其他ヲ思慮スルニ遑アラザル可シ。而シテ此恢復ヲ謀ラントセバ舉行スベキ事業極メテ多ク、皆急ヲ要スル者ナリ。何奈セン我國未ダ富マズ、國力周ク給スルコト能ハズ。急中ノ急トスル教育ノ費用スラ尙ホ之レヲ節減スルニ至ル。是時ニ當テ半バ奢華ニ屬スル不急ノ業ヲ起サン爲メニ巨萬ヲ擲タントスルハ緩急先後ヲ辨ゼザル者ニシテ、徒ラニ虛飾ヲ事トスルノ誹ヲ免レザラン歟。或ハ東京市街ヲ改正スルニ關シテハ特ニ已ム可カラザルノ理由有リテ存ズル歟。而カモ曾テ東京府ヨリ發セル議案ノ如ク、市區改正ノ爲メ年々百萬金ヲ支出シ、十數年ニシテ其功ヲ奏セントスルハ事宜ニ於テ當ヲ得ズトス。試ミニ今年東京區部ノ地方稅豫算ヲ看ルニ、其總額約ク五十萬圓ニシテ僅カニ市區改正費ノ一半ナリ。而シテ地方稅ヲ以テ支辨スル警察ナリ、土木ナリ、教育ナリ、吏員ノ給料ナリ、皆一日モ廢ス可ラザル者ナルニ不急ノ業ノ爲メニハ却テ其一倍ノ費ヲ出サントス。抑モ權衡ヲ失スルノ太甚シキモノトス。是レ忽チニ事業ヲ起シ、忽チニ竣功ヲ期スルノ癡ニ陷レル者ニシテ、蓋シ我邦人近世ノ通病ナリ。巴黎ニ於テハ富貴彼ガ如ク不便亦彼ガ如クニシテ六七十年ヲ



期スルノ事業ナレバ、東京ニ於テハ百年ヲ期スルモ尙ホ長シトセズ。若シ百年ヲ期シテ此業ヲ起サバ年々二三十萬圓ヲ支出シテ足ルベシ。一般ノ入府税ヲ施スノ不便法ニ頼ラザルモ此金額ヲ得ルハ難キニ非ズ。今假リニ萬已ムヲ得ザルノ事由アリテ東京ノ市區ヲ改正スト看做シ、左ニ三方案ヲ具ヘ以テ一般ノ入府税法ニ換フルノ議ヲ呈ス。

### △第一方

一、金三萬九千五百五十八圓

地租割増課

明治十八年度東京區部地方税地租割課額ハ地租金一圓ニ付キ僅カ二十八錢五厘ナリ、十七年度全國地方税中地租割ノ平均ハ地租金一圓ニ付二十錢一厘ナリ同年度ニ於テ神奈川區部山梨、宮城、青森、山口諸縣ハ制限満度ニ課シタリ、東京ノ如キ大都ニシテ満度ニ徵收ス

ルモ決シテ過重ナリトセズ。因テ地租割制満底ニ賦課スルモノト假定シ十八年度ニ於テ課シタル地租割ヲ除キ得ル金額本項ノ如シ。

二、金一萬六千六百六十七圓

營業雜種二税ニ一割ノ増税

十八年度東京區部營業雜種二税合テ賦課額十六萬一千六百七十一圓ナリ、之レヲ東京區部戸數二十九萬三千七百四十五ニ平均スレバ一戸當リ五十五錢ナリ、又全國ノ營業雜種二税合計四百五十九萬六千零九十五圓(十六年度ノ調ニヨル、東京十五區ヲ除キ算ス)之レヲ全國戸數七百二十五萬一千二百七十八(十六年ノ調ニ依ル、北海道、琉球、小笠原島並ニ東京十五區ヲ除キ算ス)ニ平均スレバ一戸當六十三錢四厘ナリ。而シテ東京ニ於テハ此税ヲ納ムル者人民中十ノ七八ニシテ地方ニ於テハ十ノ三四ナル可シ。今假リニ東京ニ於テ此税ヲ納ムル者ヲ十ノ七トスルトキハ、其戸數二十萬零五千六百二十二ニシテ一戸當七十八錢六厘ナリ。地方ノ納税戸ヲ十ノ四トスレバ其數二百九十萬零五百一十一ニシテ一戸當一圓五十八錢五厘ナリ。之ヲ比較スルニ東京ニ於テハ約ソ地方ノ半額ニ當ル。東京ハ富商大賈ノ寄住スル處ナレバ今此二種ノ税ニ一割ヲ増課スルモ過重ナリトセズ。

三、金二萬九千零八十八圓

十五區戸數割ノ増税

十八年度東京區部戸數割(東京ニ於テハ之レヲ家屋税ト稱スルモ實ハ戸數割ニシテ財産税



ノ性質有リ) 賦課額二十九萬零八百八十圓之レヲ區部戶數二十九萬三千七百四十五ニ平均スレバ一戶ニ付九十九錢ナリ。全國戶數割(十七年度)二百九十二萬零三百三十七圓(東京十五區ヲ除ク)ヲ戶數七百二十五萬一千二百七十八(東京十五區ヲ除ク)ニ平均スレバ一戶當四十零錢三厘ナリ大抵東京ノ半額ニ當ル、地方ニ於テモ福島青森二縣ハ一戶當一圓以上ニシテ山梨縣ハ八十錢以上ナリ。其他六十錢以下四縣、五十錢以上六十錢以下八縣、四十錢以上五十一縣ナリ。然ルニ東京ノ貲財ハ地方ニ比シ其割合十數倍ナル可シ。故ニ今一割ノ増稅ヲ課スルモ過重ナラズトス。

## 四、金三十萬圓

## 酒類入府稅

東京府ノ調査ニ依ルニ一ケ年府内ニ於テ消糜スル清酒、味淋酒、銘酒、燒酎、蒸溜酒等(濁酒、洋酒ヲ除ク)約ソ三十二萬八千七百八十八石餘ナリ。今大數ヲ取リ三十萬石トシ一石ニ付稅金一圓ヲ課スルノ算ヲ立ツ。

## 五、金二十五萬圓

## 魚類稅

東京府ノ調査ニ依ルニ一ケ年府内ニ消糜スル魚類ノ價約ソ三百五十二萬圓餘ナリ。今中家以上ノ生活ヲ察スルニ僕婢ヲ合セ一家十口ニシテ一ケ月間鮮魚ヲ食用スルコト大抵十圓トス即チ平均一人ニ付一圓ナリ。一日ノ食用三錢三厘餘トス。今假リニ平均一人ニ付一日ノ食用一錢五厘トシ之レニ東京十五區人口九十一萬人ヲ乘ジ、一ケ年金高四百九十八萬二千二百五十圓ヲ得大數ヲ取リ五百萬圓ト爲シ、之レニ五分稅ヲ課スレバ本項ノ金額ヲ得。按ズルニ東京中魚市場ト稱スル者七ヶ所有リ、皆不潔惡臭ヲ極メ通行ヲ妨碍スルコト常ニ世人ノ論ズル所ナリ。殊ニ日本橋市場ノ如キハ都府ノ中央ニ在リ宜シク別ニ其地位ヲ定メ一區ニ劃シ、繞スニ壁垣ヲ以テスベシ。此ノ如クスルトキハ魚稅ノミナラズ、營業ヲシテ場所敷料ヲ納メシムルヲ得是レ歐洲諸國ニ於テ行フ所ナリ。此事ハ所謂市區改正ノ一部ニシテ固ヨリ東京府廳ニ於テ擔任スベキ事業ナリ。又維新前ニ於テ諸藩重ク魚稅ヲ課シタリト云フ今東京ニ於テ一日數萬圓ノ魚類ヲ消糜シ諸般ノ物品ニ課稅スル時ニ當テ、却テ魚類ニ付キ一錢ノ稅無キハ恠ム可(目今東京市場稅ハ七ヶ所ニ課スル惣額僅々一千五百七十五圓ナリ。)

## 六、金七萬五千圓

## 木材入府稅

東京府ノ調査ニ依ルニ明治十四年一ケ年間東京ニ輸入セル材木ノ價百九十萬三千七百三十七圓八十錢ナリ。但ダ明治十四年頃ハ木材類非常ニ高價ナルヲ以テ今假リニ一ケ年輸入高百五十萬圓トシ、之ニ五分稅ヲ課シ得ル金高此ノ如シ。

## 七、金二十二萬七千五百圓

## 府内糞尿料



糞尿ハ運漕ノ便不便ト米價ノ騰降ニ因テ其價ヲ上下ス。之レヲ賣買スル法一人ニ付一ケ年幾許ト定ム。目今ハ米價下落シ一人ニ付二十四五錢ヨリ三十四五錢ニ至ル、今一人ニ付平均二十五錢トシ人口九十一萬人ニ乗ジ得ル金高本項ノ如シ。

按ズルニ糞尿ノ掃除ハ殊ニ清潔衛生ニ關スル所ニシテ府廳ニ於テ之レヲ擔任ス可シ。外國ニ於テモ往々其例ヲ見ル、東京ニ於テハ作配人ト稱スル者之レニ任ジ、糞尿ノ代價ハ其取得トス。故ニ市中掃除法備ラズ流行病アル時ニ於テハ其不都合ヲ覺フ今衛生ヲ理由トシ、府廳ニ之レヲ擔任シ因テ其價金ヲ收入スルコト難カラズ、作配人ニハ若干償金ヲ與ヘテ足ル可シ。

八、金十萬圓

國庫下渡金

市區改正ニ就テ益ヲ享クルハ獨リ東京府民ノミナラズ殊ニ大政府ノ爲メニハ其益大ナリトス。故ニ其費用トシテ國庫ヨリ年十萬圓ヲ給ス可シ。

合計金百零三萬七千三百十三圓

内金二十一萬三千一百二十五圓

以上四、五、六、七ノ四項ニ對シ徵收費トシテ二割五分ヲ引ク

殘金八十二萬四千一百八十八圓

此金額ヲ以テ東京市區改正費トス大抵三十年ニシテ功ヲ奏スベシ

△第一二方

以上税目ノ中二三種ノミニ就テ課徵シ、金三四十萬圓ヲ得之レヲ年賦金ト爲シ、東京市區改正債ヲ起シ債券ヲ發行シ抽籤ヲ以テ償還ヲ爲シ、之ニ惠與金若干ヲ付スルコトヲ特許ス。例ヘバ年賦金四十萬圓ニシテ利息ヲ五分トシ一分ヲ以テ惠與金ト爲シ、合セテ六分利トシ、十五年賦金ノ期ヲ立ルトキハ約ソ金四百萬圓ヲ借入ル、ヲ得之レヲ資金ト爲ストキハ市區改正ノ業速カニ功ヲ奏ス可シ。此起債法ハ佛朗西府縣債ヲ起ス爲メニ行フ所ニシテ惠與金有ルヲ以テ容易ニ資金ヲ募集スルヲ得。



△第三方

以上税目ノ中課徴ノ容易ナル一二種ニ課シ、約ソ金二十五萬圓ヲ得之レヲ以テ百年ヲ期シ、市區改正ノ業ヲ起ス此方最モ行ヒ易クシテ果シテ市區改正ヲ爲サバ須ラク此方ニ由ルベシ。

酒類ハ釀造元ニ於テ之レヲ押ヘ酤權ノ法ヲ用フルトキハ

以上四、五、六、七ノ四項ニ對シ徵收費トシテ二割五分ヲ引ク

殘金八十二萬四千一百八十八圓

此金額ヲ以テ東京市區改正費トス大抵三十年ニシテ功ヲ奏スベシ

△第二方

以上税目ノ中二三種ノミニ就テ課徴シ、金三四十萬圓ヲ得之レヲ年賦金ト爲シ東京市區改正債ヲ起シ、債券ヲ發行シ抽籤ヲ以テ償還ヲ爲シ、之ニ惠與金若干ヲ付スルコトヲ特許ス。例ヘバ年賦金四十萬圓ニシテ利息ヲ五分トシ一分ヲ以テ惠與金ト爲シ、合セテ六分利トシ十五年賦ノ期ヲ立ルトキハ約ソ金四百萬圓ヲ借入ルルヲ得、之レヲ資金ト爲ストキハ市區改正ノ業速カニ功ヲ奏ス可シ。此起債法ハ佛朗西府縣債ヲ起ス爲メニ行フ所ニシテ惠與金有ルヲ以テ容易ニ資金ヲ募集スルヲ得。

△第三方

以上税目ノ中課徴ノ容易ナル一二種ニ課シ、約ソ金二十五萬圓ヲ得之レヲ以テ百年ヲ期シ、市區改正ノ業ヲ起ス此方最モ行ヒ易クシテ果シテ市區改正ヲ爲サバ須ラク此方ニ由ルベシ。

酒類ハ釀造元ニ於テ之レヲ押ヘ酤權ノ法ヲ用ノルトキハ此一種ヲ以テ市區改正費ヲ辨ジ尙ホ



國庫ヲ富マス可シ。

以上

明治十八年十一月

# 財政資料 上卷 終

## 財政資料 上卷

### 人名索引

(イ)

- 伊藤 博文 一九三、三四九、四〇八、六三〇、
- 伊藤 大八 二六四、
- 伊藤 一郎 二六五、
- 井上 毅 四〇九、四八七、五五五、五六〇、
- 伊東巳代治 五四六、
- 石井省一郎 六二〇、
- 今村 和郎 六三九、

(ロ)

- ロベルトビール 五、
- ロ ー 五、
- ロベルト・フォン・モール 三三九、

人名索引

ロエスレル 四八七、四九一、

(ハ)

- 長谷川 泰 二六四、
- パテルノストロ 三二六、三三七、三五〇、
- バルメルストーン 三八五、
- パールヂト 三九五、三九七、

(ニ)

二位 景暢 二六五、

(ホ)

- 本間 直 二六四、
- ホイトン 三六九、
- ポメリー 三九四、
- ボアンナード 四八二、四八六、

(ト)

- 豊田文三郎 二六五、
- ト ッ ド 三三八、三三九、三五〇、三七四、



富田鐵之助

五六、五六、五七五、五七九、

(チ)

チユルゴ

六、

チャールス一世

三七六、

チャールス二世

三七六、

ヂスレリー

三八四、三九五、

(ル)

ルキ十八世

三三、

ルードルフ

五四六、

(オ)

尾崎 三良

二四七、二六二、

小野 頼家

二六四、

(ワ)

ワグネル

四二二、

(カ)

影山 秀樹

二六四、

河島 醇

二六四、

改野 耕三

二六四、

カルボウ

三四三、三四四、三四五、三五〇、三七〇、

(ヨ)

芳川 顯正

五八〇、六二六、

(タ)

高津 仲次郎

二六四、

谷 干城

四二〇、

(ツ)

ツエツベル

三七二、

(ナ)

ナポレオン一世

一四、三三三、

奈須川 光寶

二六三、

ナポレオン三世

三三一、三八三、

(ム)

ムルドル

五八三、五九三、六一〇、

(ウ)

ウキルヘルム

三五一、三六六、

(ノ)

野口 聚

二六三、

(ケ)

工藤 行幹

二六四、

グラッドストーン

三三〇、三八三、三八四、三六六、

グナイスト

三八七、

(ヤ)

山縣 有朋

二六三、五八、五二九、五三二、

山口左七郎

二六五、

山田 泰造

二六六、

(マ)

松方正義

一、七、一九三、一九八、二〇五、二一〇、  
二六三、五六六、五六九、五七五、五七九、

松田 正久

二六三、

丸山 督

二六四、

マリー

三七六、

マエツト

四九三、五〇八、

(ケ)

ゲルストネル

二九六、

ゲルストフェルド

二九七、三〇〇、三〇一

(フ)

フレオールバン

六、

プロジエ、フオデル

三四三、三四三、三四四

ブリレチエリー

三六九、

フォッククス

三七七、三八〇、三八一、三八四、

ブラツクストン

三八三、

ブラツクボルン

三八一、

(コ)

駒林 廣運

二六三、

河野 廣中

二六三、



コックス 三七六、  
コブデン 三八三、  
コンラード、ボルンハック 三八八、  
藏手田安定 四一七、四三〇、

(エ)

江橋 厚 二六五、  
江原 素六 二六五、

(ア)

新井 章吾 二六三、  
浅香 克孝 二六五、  
アグムスミス 四〇九、  
熱海 貞爾 六〇、

(サ)

三條 實美 一九、  
櫻井 徳太郎 二六四、  
佐野 佐助 二六五、

(キ)

ヒール 四九〇、

(ス)

鈴木 昌司 二六三、  
鈴木 萬次郎 二六四、  
ストーリー 三九〇、  
スタイン 四一〇、

キルビー 四〇一、

(ミ)

南 貞助 三九六、四〇〇、

(シ)

鹽田 奥造 二六四、  
品川 彌二郎 五六六、五七五、五七九、

(ヒ)

東尾 平太郎 二六五、  
ヒウゴウ、グロチユース 三六九、  
ビッド 三七六、三七七、三八〇、三八一、三八二、三八三、  
三八四、三八六、三九二、

肥田 濱五郎 四〇八、

土方 久元 四〇八、

(モ)

森 東一郎 二六四、  
基 俊良 二六五、



昭和十年九月十九日印刷  
昭和十年九月二十四日發行

(非賣品)



卷上・料資政財

製複許不

校訂者

平塚篤

發行者

平塚篤

印刷者

島潔

東京市杉並區上荻窪九六三  
東京市小石川區久堅町百八番地  
共同印刷株式會社

東京市麴町區內幸町大阪ビル內

發行所

秘書類纂刊行會

電話銀座(57)五一八一番  
振替東京三一六六四番



IT-3K-78











